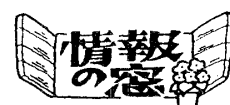


(当時)より、学問としてのORならびにOR学会への熱い思いのこもったご挨拶があった。続いて、今回会場となった名古屋工業大学の宮崎亨副学長より、歓迎のご挨拶とともに、名古屋工業大学の歴史や高層化モデル校に指定されていることなどが紹介された。その後、本告光男氏(元OR学会副会長)の乾杯の音頭により、宴へと移った。約1時間半にわたる宴のあと、長谷川利治氏(現OR学会会長、南山大学)より、南山大学の新設学部である数理情報学部の紹介があり、引き続き、小島政和氏(東京工業大学:次期研究発表会開催校)より、ご挨拶があった。両氏ともユーモアたっぷりのお話で、会場には笑いと拍手が絶えなかった。そして、実行委員長の大野勝久氏(名古屋工業大

学)によるご挨拶にて懇親会はお開きとなった。

最後になりましたが、本稿をまとめるにあたり、辻紘良先生(愛知淑徳大学)、鈴木敦夫先生(南山大学)、堀尾正典先生(愛知女子短期大学)、柳浦睦憲先生(京都大学)、野々部宏司先生(京都大学)、穴太克則先生(南山大学)、後藤順哉氏(東京工業大学)、瀬古進氏、鈴木貴氏、赤澤武雄氏(以上3名南山大学)の方々に執筆して頂いたルポを元に取り上げたことを申し添えるとともに、突然の依頼にも関わらず、ご快諾くださった諸氏ならびに会場で写真撮影を下さった井垣伸子先生(帝塚山大学)にこの場を借りて感謝申し上げます。

## 平成12年春季研究発表会見学会ルポ



田村 隆善 (愛知工業大学)

平成12年度春季研究発表会の最終日(3月29日)の見学会では、2つの工場を見学した。日本ガイシ(株)小牧事業所とヤマザキマザック(株)本社工場(大口製作所)である。参加者は総勢21名で、9時30分に名鉄犬山線岩倉駅に集合し、最初の見学先である日本ガイシ小牧事業所へと向かった。

### (1) 日本ガイシ(株)小牧事業所

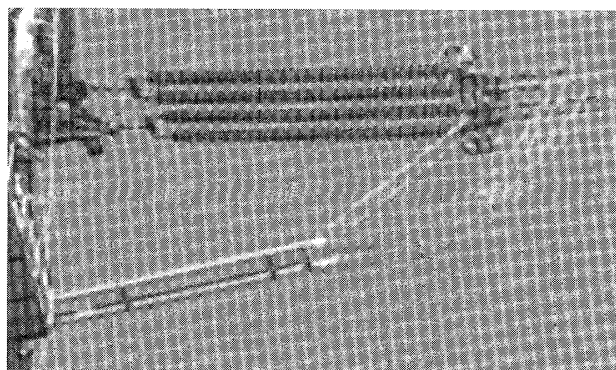
日本ガイシ(株)は、セラミックスを基盤に電力用ガイシ、NAS電池、ハニカムセラミックスを使った排ガス浄化フィルタ、電子材料など多種の製品を開発・生産している。小牧事業所は、写真に代表される「懸垂ガイシ」を一貫生産する世界最大規模の工場で、世界中に製品を送り出している。「懸垂ガイシ」は、使用される自然環境や電圧によって多くの種類があり、小

牧事業所で造る製品の品質は、他社の追随を許さないという。

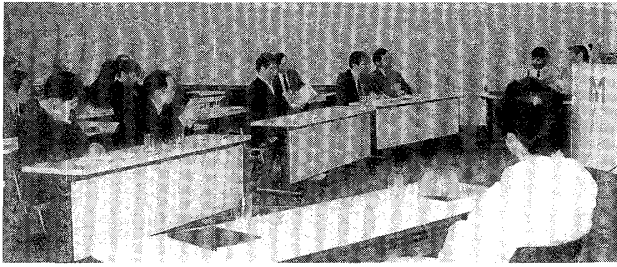
大島新司工場長などから会社の概要と工場の紹介をいただいた後、1時間ほど工場見学を行った。見学の途中に活発な質疑が行われたが、見学後の質疑応答も盛り上がり、質疑応答を終了させるのに司会者(尾鍋氏)が苦勞したほど参加者の関心は高かった。見学した工場は大規模な自動化が行われている。参加者からの質問は、それらの採算性、設備保全、製品等の寿命、品質管理、生産計画や日程計画など多岐に渡ったが、一つひとつ丁寧な回答をいただいた。昼食を日本ガイシで済ませた後、バスでヤマザキマザックへと向かった。



日本ガイシ(株)小牧事業所にて



懸垂ガイシ



ヤマザキマザック(株)大口製作所での質疑風景

## (2) ヤマザキマザック(株)大口製作所

ヤマザキマザック(株)は、多軸制御マシニングセンタやNC旋盤を開発・生産する工作機械専門メーカーで、美濃加茂工場は、10数年前、夜間無人運転するファクトリ・オートメーション (FA) 工場として内外の注目を浴びた。ヤマザキマザックは、NC旋盤とマシニングセンタの売上高では、現在日本最大であり、工作機械だけの売上高で見ると、世界最大規模ではないかと思われる。

大口製作所長の内堀彰氏から会社の概要について説明を受けた後、熊谷栄治部長から大口製作所のサイバーファクトリについて説明を受けた。これは、「CNCの情報通信機能とネットワークを活用した生産支援システム」であって、POPとリンクしたスケジューラ、

治工具のマネジメント、CAD情報を使った加工の3次元干渉チェック、機械稼働状況のモニタほかをネットワークによって統合化したシステムである。

説明の後、2つのグループに分かれて工場見学を行った。精密測定のための恒温室、部品やベッドなどの自動加工とAGVによる自動搬送、CNCの情報通信機能とパソコンをネットワークで繋いだモニタ、組立ラインなどについて丁寧な説明をいただいた。見学後の質疑応答も活発であった。なお、サイバーファクトリに現在組み込まれているスケジューラのアルゴリズムは、ディスパッチング・ルールをベースにしたものとのことで、最近のORの成果はまだ活用されていないようである。

帰りは、ヤマザキマザックのご厚意で、名鉄犬山線江南駅まで会社のバスで送っていただき、そこで解散となった。参加費用は3,000円。豪華な昼食付きで世界の代表的な工場を2つも見学できたのであるから、参加者全員が満足のゆく見学会であったと確信している。

最後に、今回の見学会は、日本ガイシの飯田次生氏ならびに尾鍋佳昭氏のご尽力によるところが大きかった。心から感謝申し上げたい。